

**14. 環境と共生する低炭素な住まいづくりの促進**  
～愛着をもって長く住み継がれ、環境と共生する住まいづくり～

**(1) 目的**

世代を超えて長く住み続けられる居心地の良い住まいやCO<sub>2</sub>排出量の削減などに資する環境にやさしい住まいなど、世界の環境首都を目指す住まいづくりを推進し、質の高い社会資産となる住宅ストックの形成と活用を図ります。

**(2) これまでの取組**

これまでも本市においては、地球温暖化防止等地球環境保全の観点から、全国で初めて環境共生高層マンション（「マ・テール穴生」「ドウ・マ・テール穴生」）を供給するなど、全国に先駆けて「環境共生住宅」の普及促進の取組を進めてきました。

また、民間事業者をはじめとして、積極的に先進的な取組がなされており、最近では八幡東区高見地区において、国土交通省によるモデル事業に採択された事業が進められています。

○住宅・建築物省CO<sub>2</sub>推進モデル事業（H21.5採択）

事業者：北九州市住宅供給公社、  
八幡高見（M街区）共同分譲事業共同企業体（東宝住宅㈱、岡部産業㈱、㈱なかやしき）  
事業期間：H21.11～H23.7（予定）  
計画戸数：123戸



**(3) 今後の取組**

**ア. 超長期にわたって循環利用される住宅ストックの形成**  
次世代に承継できる良質な住宅ストックの形成に向け、耐久性や耐震性などの性能が確保され、高度化・多様化した居住ニーズに応えながら、様々な人々によって循環利用される住宅の供給を促進します。

また、住宅の資産価値が超長期にわたって維持されるよう、居住者による管理体制の充実などソフト面での対応も含めた適切な維持管理やリフォームを促進します。

**イ. 環境と共生する低炭素な住まいづくりの促進**

地球環境問題がクローズアップされ、環境にやさしい住生活が求められていることから、住宅の整備、使用・維持管理、解体の各段階における省エネルギー性の向上はもとより、資源の有効利用、自然エネルギーの活用、住意識の向上などにより環境負荷の低減を図ります。

**(4) まとめ**

今後とも、「環境と共生する低炭素な住まいづくり」を目標とし、環境性能の高い、資源を大切にす、市民主体の環境にやさしい住まいづくりを促進していきます。

**15. 市営住宅CO<sub>2</sub>削減対策モデル事業**

低炭素社会を実現するストック型都市への転換に向けて、環境配慮型建築物の推進が求められており、市営住宅においても同様に環境対策に対する取り組みが必要となっています。

そこで、今後建替える市営住宅の屋上部分に、原則として太陽光発電設備を設置し、CO<sub>2</sub>の排出量の削減を図ります。



**16. 学校施設太陽光発電導入事業**

**(1) 事業の概要**

学校施設太陽光発電導入事業とは、市内公立学校に太陽光発電を導入することにより、環境教育の教材としての活用や二酸化炭素削減など地球温暖化対策、また、地域住民への環境問題の啓発を行うことにより地球温暖化や省エネルギーなどへの関心を高めていく事業です。

**(2) これまでの取組**

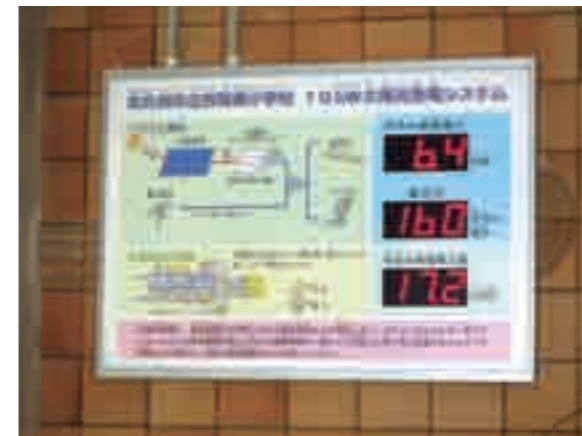
これまで、学校の改築にあわせて太陽光発電を導入してきましたが、平成21年度に文部科学省が推進する「スクールニューディール」構想の中に、太陽光パネルをはじめとするエコ改修が位置づけられたことにより、積極的な

太陽光発電の導入を行い、平成21年度、小学校40校、中学校21校に設置することができました。

○太陽光発電設備（出力10kWの設置例）



○電力モニター



**(3) 今後の取組**

平成22年度は平成21年度に引き続き、太陽光発電を市内小・中・特別支援学校に、積極的な導入を行います。

**17. ESCO 事業の普及促進**

**(1) ESCO 事業とは**

ESCO（Energy Service Companyの頭文字を取り『ESCO（エスコ）』という）事業とは、工場やビルの省エネルギー改修に必要な「技術」「設備」「人材」「資金」などのすべてを包括的に提供するサービスです。それまでの環境を損なうことなく省エネルギーを実現し、その結果得られる省エネルギー効果を保証する事業です。

省エネルギー改修費用、ESCO事業者の経費、金利の返済等はすべて省エネルギー化による経費節減分の一部から賄うため、初期費用がなくても省エネルギー化が可能であることが大きな特徴です。



**(2) 普及促進の取組**

省エネルギー改修の新しいビジネススタイルであるESCO事業の仕組みやESCO事業の改修実施事例等を紹介することで、ESCO事業に関する理解を深めるとともに、市域での省エネルギービジネスの普及促進を図っています。

**(3) 北九州市役所におけるESCO事業の取組**

本市では、ESCO事業の普及促進と自らの二酸化炭素排出量削減のため、平成16・17年度には北九州市立大学北方キャンパス、平成19年度には北九州市立医療センターでESCO事業を行っています。



18. CASBEE 北九州の普及促進

(1) 導入の背景

建築物はそのライフサイクルを通じ、エネルギーの消費や廃棄物の発生など、環境に対し様々な影響を与えています。

CASBEE（建築環境総合性能評価システム：Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency）は、建築物等の環境性能を評価するシステムとして、平成15年に国土交通省、学識経験者など産官学の共同により開発された評価システムで、計画建物がどれだけ環境に配慮した建築物であるかを判断する全国共通の「ものさし」となるものです。

本市では平成17年度から、延べ面積2,000m<sup>2</sup>以上の公共建築物について環境性能評価を実施してきました。

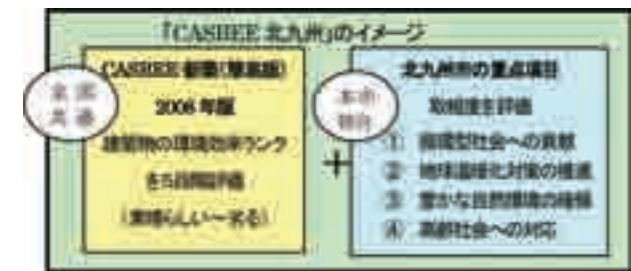
平成19年11月には、民間建築物に対しても、建築主が建築物の環境性能を自己評価し「特定建築物環境配慮計画書」を市に届け出る制度を開始し、平成20年10月には、本市の地域性を盛り込んだ独自の評価システム「CASBEE北九州（北九州市建築物総合環境性能評価制度）」を活用した届出制度を開始しました。

当制度の導入により、建築主の環境に対する自主的な取組を促し、環境に配慮した建築物の整備が促進され、環境保全や持続可能な都市の実現に向けた取組が期待されます。

(2) 制度の概要

ア. 届出の取扱い

届出対象建築物	延床面積2,000㎡以上の新築、増築または改築
使用する評価ソフト	「CASBEE新築（簡易版）2008年版」＋「北九州市の重点項目」
評価結果	「CASBEE新築（簡易版）2008年版」評価結果＋「北九州市の重点項目」評価結果
届出時期	工事着手の21日前



イ. 評価結果の公表

評価結果の概要を市のホームページにて公表します。建築主のメリットとして、評価を実施し、結果を公表することで、建築物の環境性能を消費者にアピールすることができます。

(3) 今後の取組

環境に配慮した建築物の整備が促進されるよう、今後もCASBEE北九州の普及に取り組みます。

○CASBEE新築（簡易版）2008年版の評価結果のイメージ



○北九州市の重点項目評価結果のイメージ



19. 環境・エネルギー分野の誘致

(1) 目的

「北九州市環境モデル都市行動計画」に基づく「環境をテーマとした産業立地戦略」の取組方針として、環境・エネルギー関連企業の市内への立地を促進することを掲げています。

こうした中で、環境モデル都市の更なる発展を図るため、本市のモノづくりに対する熟練した技術・ノウハウを活用した新たな環境技術・製品の開発を促進するとともに、将来有望視されている環境・エネルギー関連製品の技術開発に意欲的な企業の誘致を積極的に行います。

(2) 取組内容

平成20年度から環境・エネルギー関連産業をターゲットとしたトップセールスによる誘致フォーラムを開催しています。環境モデル都市の取組や本市に立地する企業の先端技術等を紹介することにより、本市に関心を持つ企業や投資意欲を持つ企業の本市への進出を促します。

平成21年度は照明産業大革命の最新レポートと称し「有機EL・白色LED」の先端技術をテーマにリレー講演を実施しました。（参加企業：224社）



平成21年度 フォーラムの様子

20. 産学連携による技術開発の推進

(1) 学術研究都市について

平成13年4月に「アジアの中核的な学術研究拠点」と「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指して創設された北九州学術研究都市では、複数の理工系大学や研究機関、研究開発型企業が集積して、低炭素化社会の発展に役立てる環境技術等を中心とした研究活動を展開しています。

◆進出機関数（平成22年3月1日現在）

項目	進出機関数
大学	4
研究機関	16
企業	56

(2) 産学連携による主な研究会

学術研究都市や市内の大学などの学術機関を基盤に、低炭素化社会に向けて必要とされる技術開発を産学連携の下で推進するため、学術研究都市では様々な研究会を企画・運営し、共同研究につなげる活動を行っています。

◆主な研究会

研究会名	内容
北九州薄膜太陽電池研究会	色素増感型、有機薄膜型、薄膜シリコン型の太陽電池を対象として、材料開発・デバイス開発や新規プロセス開発に関する支援及び最新情報の共有化等、情報交流推進等の活動を行っています。
自動車用軽量化高度部材加工技術研究会	環境に配慮した軽くて省エネルギー効果が高い部材の実用化開発にポイントを置き、新素材による部品の試作及び評価等を行っています。
先進パワーデバイス信頼性研究会	電気自動車等の次世代自動車や家電製品の省エネルギー化に必須となるパワーデバイス（パワー半導体）について、信頼性試験方法の確立等の研究を行っています。



学術研究都市（若松区）